ちばしゃ通信 (Vol. 5)

私たちが大事にしてきたこと…
各拠点への思い（part２）

第２号以降先延ばしになっていた、当法人の拠点づくりやサービスづくりへの思いや考えに関して、本号では、五根の家の開設と取り組みをお伝えしていきたいと思います。

鴇嶺の家を開設して６年が経過する中、私たちは、鴇嶺の家で築いてきた実践や考え（ちばしゃ通信の第２号に掲載）をより鴇嶺小学校区・城西小学校区内に広げたい！支援をより強化したい！という思いを持っていました。そんな時に、東金市の地域密着型サービスで、その思いを実現する機会が巡ってきました。

これまでの私たちの実践は、まちの中にある空き家等を活用しての取り組みでしたが、規模や仕様の条件、予算に見合う物件がなかなか見つからなかったため、新築で開設することにしました。そして実質１年弱での立ち上げは、様々な場面で困難を極めましたが、６年間の地域での取り組みにより、多くの皆様にご理解とご支援、ご協力を得て、平成 23 年６月１日、東金市台方、元の千葉県立東金病院の向かい側に、「五根の家」を開設することができました。

五根の家は、認知症対応型共同生活介護、通称、認知症高齢者グループホームと小規模多機能型居宅介護、通称、小規模多機能ホームの２つのサービスを併設する形で始めました。それは、法人創設から謳い文句である「通って、泊まって、自宅にもきてくれて、いざとなったら住むことができる」というスタイルをよりしっかりと進めたいという思いからでもありました。

小規模多機能ホームは、「自分らしく、住み慣れた自宅や地域で、これまでの人間関係を維持継続しながら生活し続ける」ということを実現するためのサービスです。

介護保険制度に従来からある「デイサービスやショートステイ、ホームヘルプサービス、ケアマネジメントを組み合わせたもの」ではなく、介護施設（特別養護老人ホーム等）の在宅版のようなサービスです。施設の居室を「自宅」と捉え、廊下は道。施設の職員が居室にお邪魔するように自宅に訪問したり、日常のつどいの場として食堂へ集まるように自宅に通うというものです（右図）。

私たちも東金市や近隣地域（鴇嶺小学校区や城西小学校区）を施設と捉え支援を進めています。

認知症高齢者グループホームは、入居される方の「もうひとつのお家（自宅）」という考え方のもと、馴染みの人間関係を維持した支援を大事にするよう心がけました。

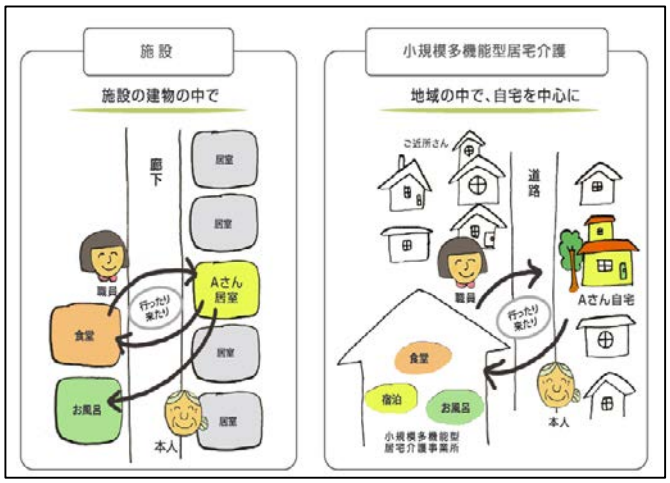
この２つのサービスの実践にあたっては、本人のこれまでのライフスタイルや意志（非言語的なコミュニケーションから汲み取ることも含めて）を尊重し、ご家族との関わりや近隣地域の方々との関わり、東金特有のお祭りや文化行事、地域行事などにも積極的に参加しています。

その中で、お一人おひとりの人間性や関係性、生き方、意志などを実感させられると共に、専門職として大事なことを学ばせて頂いています。

また、数人の方の看取りの時期にも関わらせていただきました。日々関わっている方の死は、とても「悲しく・さみしい」ものです。

しかし、それだけではない「生きる強さ」や「覚悟」などを関わりから実感させられるとともに、「老いて死ぬ」とはどういうことか？最期の迎え方はどのようにあることがよいのか？を考えさせられています。

開設して４年、改めて「福祉や介護の奥深さ」を痛感しているところですが、地域の皆さんと問題や課題を共有しながら、支援や介護が必要になっても共に支え合える地域づくりに取り組んでいきたいと考えています。



理事からのメッセージ

今でも昨日のことのように娘が生まれてきてからのことが思い出されます。医療用のミルクでの子育て、機能回復のための通院と全てが一生懸命でした。ゆっくりながらも成長をしていく姿を楽しみに月日を重ねてきました。

当時は、簡易マザーズ保育にも月謝を支払って通い、保育所入所してからも半日保育しか受け入れてもらえず１日保育が受けられるまでに１年かかりました。学区の小学校も１年生の担任からは、「となりの席のお子さんが娘さんの世話をしているから、勉強ができないと言われた。」と言われ、理解のないところには通えないと判断し、２年生からは東金養護学校に転入しました。地域とのつながりが１年でなくなってしまいましたが、東金市手をつなぐ親の会の活動でで知り合った人たちと同じような悩みを一つ一つ解決していく中で、簡易マザーズホームは、東金市の運営となりほぼ無料で通え、保育所・幼稚園に希望通りに入ることが出来るようになりました。それでもなお、お子さんのことで悩んでいる親はたくさんいるのではないでしょうか、どうぞ、お母さんお父さん相談するところはたくさんありますから悩まないで、相談してください。先輩親はみなさんの力になることができます。私は、娘の成長とともに在学中から『親は子どもより先にいなくなるもの』と娘の将来を考えて、自分の身の周りは自分ですることを小さなころよりさせてきました。足りないことは多くありますが、見守り・補助をすればだんだんと出来るようになってきました。学校卒業後は、「子離れ、親離れ」のため、距離を置いた関わりにしています。

ただ、生まれ育った東金で暮らし続けられるよう、グループホーム等の開設もと考えています。手をつなぐ親の会での活動を通じて多くの人の出会いをこれからも大切にし、１０周年を迎えたちば地域生活支援舎の活動を通して、東金市の活性化につなげていくお手伝いが少しでもできるようにと考えています。

日暮久美子（理事／東金市手をつなく育成会）

【ときがねフォーラム・ステージ企画出演者・紹介（全４回／１回目）】

きもの地サロン・川島道子と仲間たち

着なくなった着物をほどき、アクセサリー、ポーチ、バック、タペストリーなどの小物から服まで、その人に合わせてリメイクするサロン。
毎月第2、第４月曜日、鴇嶺の家・ありさで開催中。

ＴＦＶ（東総フォークヴィレッジ）

３５年前開催された『わたぼうしコンサート』をきっかけに千葉県東総地区で結成されたバンド。現在はボーカル・ギターの高橋信行１人になってしまいましたが、結成当時からの情熱をもち、仲間の応援を得て活動を続けています。

＊『わたぼうしコンサート』とは、障害を持った子どもたちの作詞に若者たちが作曲で応募し、その年のグランプリ曲をもって全国コンサートツアーをするという活動です。

【各種イベント＆活動情報】

SANBO100 号記念パーティのお知らせ

日　時　6月6日（土）18:00～
（受付は、17:30）
場　所　蓬莱閣（ほうらいかく）
（※東金駅東口徒歩 10 分）
参加費　一人 5,000 円
申込先　0475-54-0143（土肥）

特別企画「見せます SANBO」 貴重な創刊号から最新号まで一挙公開

期　間　4月1日～5月 29 日
（土日は休み。祝日は可）
時　間　9:00～17:30
場　所　ハンドワークありさ
（※東金駅西口徒歩２分）
電　話　0475-50-0362

【法人内の各事業所から】

鴇嶺の家（高齢者・障がい者）

もうすぐお花見の季節ですね。鴇嶺の家は桜の名所と言われている八鶴湖が近いので毎年桜を観に散歩に行っています。今年も桜が咲き出したら観に行きたいと思います。早く暖かくなるといいですね(#^^#)

鴇嶺の家（児童）

年中さんの男の子がテレビ画面の流れるテロップを見て「どこに行くんだろう？」と画面の隙間を一生懸命覗いていました。

子ども支援センターぽけっと

あまり意思表示をしてくれなかった中学生の男の子。利用日が増えた事により、最近は少しずつですが、自身のしたい事、欲しい物などの意思表示をしてくれるようになりました。スタッフから頼まれると力持ちの彼は３人分のカバンを運んでくれます。お友達からありがとうと言われ、笑顔になる彼を見るとこちらも嬉しくなります。

サポートセンタースピリッツ

４月から制度の内容（サービス単価等）が少し変わります。上限額が0円の方はあまり影響はありませんが、上限額が発生している方は時間ごとのサービス単価（お金）が少し変わります。スピリッツをご利用されている方全員に、制度の内容が変わるため契約書等の取り直しを順次行っていきますので、その際はよろしくお願い致します。ちなみにサービス内容は変わりありませんので、今後もスピリッツをよろしくお願い致します。

街かど福祉相談室るると

年末度は慌ただしいものですね。今年度は計画相談の移行期間最終年度なので特に感じております。お待たせしている方がまだたくさんいらっしゃいます。皆さんにはご迷惑をおかけしておりますが、順次取り掛からせて頂きますので、もうしばらくお待ち願います。

ハンドワーク

去年の９月より菓子製造営業許可を取り、１０月より本格的に稼働しています。クッキーやカップケーキ等を作りイベントにて販売しています。ぜひ一度お試しください！

ありさ

いよいよこの町が賑わう季節が近づいてまいりました(ˆ0ˆ)v そう！八鶴湖の桜まつりです。今年は火正神社の例祭も重なり、益々賑わう予感です♡

ありさもその賑わいのおこぼれに与ってしまえ！！という事で、土日にお店を開けたいと思います。軽食・飲み物を用意してお待ちしています。どうぞお立ち寄りください。

かばの家

チキンのミルクグラタン、きのこのミルクシチュー、いちごあんパンを始めました。もう少し暖かくなったら、桜あんパンを始める予定です。ご賞味ください。

かばの家のみんなは、元気にがんばって作っています。

五根の家・グループホーム

前回の記事の後、同じく開所当初よりご入居されていた方が２月１９日にご逝去されました。ご自身の意思を貫き、大切なご家族に寄り添われての最期でした。スタッフ一同よりご冥福をお祈りいたします。

五根の家・小規模多機能ホーム

２月中は体調を崩される方が数名おられましたが、気温が暖かくなるにつれて、ようやく皆さんの体調が整ってきたところです。これからお花見の季節を迎えるので、元気にお出掛けをしたいですね。

ちばしゃ通信
（Vol５）

発行日：2015 年 3 月 19 日
発行元：ちば地域生活支援舎
編集責任者：宮下・太齋
連絡先：0475-53-3630

編集者のつぶやき

・3月 13 日、尊敬する先達の一人が 60 才という若さで、亡くなった。“強がりとやせ我慢”で、特養を解体し、地域包括ケアのモデルとなる実践をつくり、実践から制度や仕組みを変えてきた、本当に凄い人だ。その先達が築いてきた道（意思）をしっかりと受け継ぎ、今後さらに取り組んでいきたい。(Jerry)

・まだまだ寒い日もありますが、段々と暖かい日が増えてきてうれしいです。ですが花粉が増えてきているので少し憂鬱です…。皆さんも花粉症対策行ってください。(W)